

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372800997		
法人名	農協法人		
事業所名	グループホームやまびこ		
所在地	熊本県上益城郡山都町下馬尾288-5		
自己評価作成日	平成30年11月6日	評価結果市町村報告日	平成31年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成30年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム開設より、14年という月日がたち地域住民のみなさんとも顔なじみの関係を築くことができおり孤立することなく開かれたホームとなっています。住宅街の中にあり「やまびこ」というひとつの家として地域のなかにとけこむことができています。また、同じ地区に協力病院もあり先生や看護師のみなさんとも、常に連携をとることができおり救急の場合も安心できる環境ができています。利用者の高齢化・重度化は進んでいますが、おひとりおひとりのできること、思いをくみとり出番作りを行い充実した暮らしができるように工夫しています。明るい陽ざしのなか、職員と利用者との関係にとどまらず、「家族」と捉えお互いを支えあい、ぬくもりのあるやさしい日々を過ごせるホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あなたの笑顔と思いを大切に」の運営理念のもと地域住民が地域で穏やかに毎日を過ごす姿は自宅そのもので、開設以来、寄り添う支援を大切にしている様子が窺えました。廊下に飾られた日々の写真には笑顔があふれています。入居者の高齢化もあり、以前の様な気軽な毎日の外出・活動は難しくなっている様ですが、出来る範囲で出来ることを楽しみながら生活の継続に向けた支援が行われています。地域の中の生活を感じることが出来るのが、災害時の地域の力を活かせるように避難時に備え、入居者ひとり一人の入り口に、独歩・車イスの表示がしてあり誰もが協力できるようになっている事と、職員の働き方にも色々工夫があり、地域と連携したホームであること、また有り続けられることに期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型のサービス施設という理念は管理者職員全てが理解し共有しており、職場でありながら、地域住民の一人としての意識をもっている。	地域住民が地域で関わりを持ちながら生活することは事業所開設から変わらず継続されている。勤務年数も長いことから職員の共有もされており、入居者が地域住民の一人として生活できるよう家族・訪問者とともにケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅街にあり地域の方とのふれあいは日常的にできている。 地域の行事参加の声かけもあり、できる限り参加協力を行っている。	日頃から事業所から地域に入居者の関わり・参加について伝えていることから、地域からの声掛けも継続されている。生活に根付いた「八朔祭り」見学は毎年欠かさず、入居者にも喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座への協力や研修生の受け入れを行っている。 普段からの交流にても認知症についての支援や相談を受け、啓発を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・区長・福祉委員・行政等の参加の中、ホームの現状や活動報告を行っている。 参加者の視点から色々なご意見頂くことができよりよいサービス向上に繋げている。	会議には地域や役場からの参加もあり、日頃の様子や活動状況を積極的に伝えている。参加者からの質疑も活発で、助言・要望・問題提起も議事録に残し、サービス向上に向け活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括ケア会議や運営推進委員会等にてホームの現状について報告を行っている。 担当窓口や訪問調査委員を通して連携の強化に努めている。	毎月役場・地域包括主催のケア会議や運営委員会への参加により日頃の取り組みを積極的に行っている。役場や地域の他事業所との情報交換や事例検討等も行い、連携構築を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険の改正に伴い身体拘束委員会を福祉部全体で設置をし定期的に研修を行っている。 具体的な行為も十分理解しており拘束をしない工夫を行っている。	従来より法人全体で研修・勉強会を行っており、今年度からは事業所からも身体拘束委員会に担当職員が構成員となり参加している。法人により定めた指針・事例検討等、内容は職員へも報告、理解を深め、ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が研修等への参加を行い虐待について学ぶ機会を設けている。 日々のケアの中で職員ひとりひとりが高い意識をもちお互いに虐待を見逃さないように努めている。		

グループホームやまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度に対して研修も行い理解はできている。家族に対しても説明を行っている。今後、必要とならば制度の理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や改定時には本人・家族には十分な説明を行い理解を得ている。いつでも疑問点・不安なことに対しては対応し、安心できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会の実地・運営推進委員会への参加等にて要望等を言える体制を整えている。要望があれば早急な対応を行っている。	年2回の家族会には全職員も参加し、昼食会も行うことで家族との懇親を深め、意見の出しやすい環境作りにも配慮している。得た意見・要望には各入居者の担当職員が対応し、状況によっては事業所全体で対応を行っている。	日頃から家族面会もよく見られ、職員と家族の間に関わる機会も多いことから関係の良さが伝わりました。事業所・入居者家族とも皆が家族としてケアに向かう姿勢を是非継続してください。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なカンファレンスや申し送りノートを活用し職員の思いや意見を聞く体制作りを実践しておりよりよいケアや運営に反映できている。	毎月全職員でカンファレンスを行っており、入居者それぞれの状況を把握し、改善に向けた意見を出し合っている。その際には、職員の意見・要望等を出し合う機会ともしており、話し合う機会を持ち、業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	農協という母体の中で福祉部の重要性は深まっている。代表者の訪問もあり率直に状況について報告することができているが、職員の待遇に関しては今後も向上できるように働きかける必要がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量は十分把握できており、個々にあった研修等への参加に努めている。日々のケアの中で場面ごとに必要な時にはアドバイスをを行い個々の質の向上に務めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型の部会や地域ケア会議等の参加をし他施設との意見交換や事例の検討を行いサービスの向上に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に事前に本人や家族と面談を行い生活歴や現状の状態の確認を行い、ホームでの暮らしに不安がないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	それぞれ家族の立場からの話を伺い不安な点や要望を理解し安心できるようにできる限りの支援に努めていくことで信頼関係の構築に繋げている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時点になんでも話せる雰囲気作りを行い本人や家族の本音が聞き出せるようにし思いをくみとり必要なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族という意識をもちお互いを支えあい寄り添いあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人との関係がとぎれることのないように「暮らしの日記」を毎月送付し状況の報告を行い、支えていく同士という意識をもてるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊や日帰りの帰宅、また外出等にて、昔馴染みの人や場所が認識でき続けるように支援している。	事業所では、毎日を特別なことではなく、従来からの生活を大切に暮らすを大切にしている。中でも家族との関わりや以前からの知り合い来訪も歓迎し、声掛け等継続して支援している。かかりつけ医通院時には知り合いと会う機会も多く、地域住民との触れ合いの時間ともなっている。	近年家族の高齢化等もあり、家族との帰宅・外出の機会が難しくなりつつある様子が窺えました。地域全体の高齢化もあると思いますが、地域に密着した生活の継続に期待しています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や個性を十分理解し親しみやすく、居心地のよい空間作りを行い和やかな雰囲気作りを行っている。		

グループホームやまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にも、本人や家族と連絡をとりその後の暮らしも安心できるように相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でひとり・ひとりの言動を注意深く観察することにより思いをくみ取り本人が暮らしやすい環境作りを行っている。	日々の生活の会話から思いを汲み取っている。思いを伝えることが難しい入居者には言葉掛けを工夫し、意思を確認しながらケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族より自宅での暮らしぶりや利用されていたサービス施設より情報提供をお願いしこれまでの生活環境との変化が少ないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員ひとり・ひとりが利用者の心身状態を把握できており無理することなく日々の暮らしをおくることができている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員全員でカンファレンスを行い問題点や課題等について話し合いを行っている。本人の思い、受診時に主治医の意見や家族の要望を伺いケアプランの作成に反映している。	毎月のカンファレンスには全職員が参加し、課題・対応の共有を行っている。入居者の負担軽減の目的もあり、パットから介護パンツへの移行等、職員対応による改善事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に日々の暮らしぶりや言動を記録に残しアセスメントに繋げている。業務日誌や申し送りノートの活用にて個々の情報の共有は十分できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から他事業所や医療機関等との連携に努めその時に必要と思われるサービスを見極め柔軟で適切な対応ができるような体制作りを行っている。		

グループホームやまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の慰問やつながりホーム等への参加等にてみなさんと一緒に楽しく張りのある暮らしができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の望むかかりつけ医とし定期的な受診の支援を行い関係の強化ができており緊急時にも適切な対応ができています。	入居前からのかかりつけ医の継続支援と協力医への受診の双方を入居者に選んでもらい支援している。職員による通院介助も行う。協力医は地域の病院であることから、様々な場面においても連携により緊急時の対応も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、利用者の心身状態の把握には留意し看護師や介護職と情報の共有ができています。 適切な受診や看護ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に備えて定期受診には付き添い随時情報提供を行い、一人ひとりの状況を共有している。 主治医・看護師・事務職等との関係は構築できており必要時には臨機応変な対応ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針は入所時より随時、相談を行い色々な選択肢があることを伝え、現状でホームでできることは明確に伝えている。他事業所や病院との連携も行い、よりよい終末期の過ごし方に向けての支援に取り組んでいる。	入居時に入居者・家族へ対し十分な説明を行い同意を得ている。実際にその時期を迎えた際には医療機関や他事業所との連携、家族との話し合いを重ねケアにあたっており、現状では最終的な医師判断のもと病院への移行を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故時の対応マニュアルを作成、年に一度は消防署より救急対応の訓練の研修を受けAEDの操作方法も訓練しており実際救急対応することもあり、あわてず適切な対応ができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	熊本震災後より災害に対する意識が職員・地域住民のみならず共に高く、年に2回は昼と夜間に地域の方の協力を得て避難訓練を実施しておりホームの存在を認識してもらい協力体制は強化ができています。	熊本地震をきっかけに、より地域の方々にも積極的に事業所・利用者のことを伝えてきており、運営推進会議等を利用し連携を深めてきた。年2回の訓練後は反省会も行い、職員意識も高まってきている。	

グループホームやまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や生活歴を把握し、本人の価値観や自尊心を傷つけないような対応に努めている。特に排泄の声かけには十分配慮している。	入居者の人格を尊重し、日頃の生活の様子や意向に合わせた声掛けや対応を行っている。特に排泄や入浴時にはほかの方にも配慮した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる方は着替えを一緒に選んだり整髪に出かけたりしている。日常的に気兼ねなく要望が言える環境や信頼関係作りを努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、固執することなく自由に昼寝をしたりテレビを見たりと危険のない限り好きなように過ごすことができている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方は好みの衣類や化粧道具を選び自分らしさを大事にしている。他の方も家族より着なれた衣類等を準備して頂き本人らしさをなくさないように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは配色センター利用だが、テーブル拭きや食器洗いの手伝いを個々の能力に合わせて行っている。おやつや焼きそば作り等行い料理をして食べるという楽しみが味わえるように支援している。	食事は隣接の配食センターにより3食提供されている。配食センターも法人施設のひとつであることから、好みや要望も伝え反映されている。食事時間は職員も同じ食卓で食事を囲み、コミュニケーションの時間となっている。	毎日の食事は配食であるため、機会毎におやつや行事時には入居者との手作りを楽しんでいる様子が窺えました。入居者の状況変化もあるでしょうが、配膳や茶碗洗い等、できる範囲での参加・関りを是非継続してください。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理士の献立のもとバランスのとれた食事が摂れている。個々の食べる力に合わせた形態とし、職員も食卓を囲み安全で楽しい食事時間となっている。水分も好みの物を摂ることができている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が付き添い個々に合わせた声かけや見守りを行い不十分な部分を介助し清潔保持ができている。入れ歯は每晚洗浄剤を行っている。		

グループホームやまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを毎日記録し個々の排泄パターンの把握を行い汚染を減らすように努めている。定期的なトイレ誘導を行い排泄のリズム作りを行っている。	入居者それぞれの状況に合わせ、昼間はトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレやパットの利用もありますが、夜間のトイレ誘導等でパットの利用が減った事例もあり、できるだけ排泄の自立に向けた支援にも取り組んでいる。	夜間ポータブルトイレの使用が数人ありましたが、使用しない昼間は布を掛け、プライバシーにも配慮した対応が行われていました。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い状態の把握をしている。体操や十分な水分補給体操や腹部マッサージ等にて便秘の予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に週2～3日の入浴を行っている。本人の希望が優先であり、心地よくゆっくりと入浴が楽しめるようにしている。	週2～3回の入浴を基本としているが、清潔保持は病気予防の面からも力を入れており、清拭・着替えをまめに行っている。自立支援の面から職員本位の手助けはせず、入居者それぞれにできる所は見守りながら安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身状態や疲労感等に合わせ、ゆっくり休めるように声かけを行っている。就寝の時間も一人ひとり様子を伺いながら好きな時間に眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服薬の内容がわかるようまとめており個別に内服は看護師が管理して職員全員が内容の把握はできている。確実な服薬ができており症状に変化があれば看護師や主治医への連絡を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦として家族を支えていた方が多く、洗濯物ほしやたたみ等にて負担のない程度の出番を作りはりのある暮らしができるように支援している。カラオケや晩酌を楽しむこともできている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化により遠出をする機会が少なくなったが季節毎に近くにある公園や商店街、レストラン等に外出を行い変化のある暮らしができるように支援している。また、地区の行事にも地域や家族の協力を得ながら参加することができている。	入居者の状況により日常的で気軽な外出は難しくなってきたが、地域行事への参加・見学、外食等、機会毎の支援を行っている。病院受診が通院であることから外出もあり、また地域住民との交流等の機会としている。	年々入居者の意欲低下も見られる様子も窺えた中、買い物同行や庭の野菜植え、地域行事との関わり等、出来る範囲で、また見守りで参加を促しながら外出の機会を作る様子がありました。

グループホームやまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて現金の管理をして頂き、病院や買い物での支払いを見守りの中行っており能力の維持に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は深夜や早朝以外は希望があればいつでもすることができる。手紙は暑中見舞いや年賀状を折々に家族や知人に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同のスペースはとまどいのないようすっきりとし、見慣れた環境作りとしている。古いタンスを置いたり畳の間もあり落ち着いた空間としている。窓からも景色が見ることができ季節毎にも貼り絵を作り季節感を感じることができるように工夫している。	掃除が行き届いた共用スペースは明るく、入居者が思い思いに過ごすソファや場所が確保されている。入居者一人ひとりが孤立しない様、また入居者それぞれが心地よく過ごせる様職員も常に見守り・関りを持っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格や気の合う同士を十分把握し座る位置には配慮している。気兼ねすることのない居心地のよい居場所が個々にある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使いた物を準備してもらい環境の変化に戸惑うことのないように配慮している。家族の写真や大事にしている物を飾り安心できる居室作りをこころがけている。	以前から使用されていた家具や生活用品が持ち込まれ、居室には写真等の雰囲気彩っている。家族写真や思い出の品々には家族の関わり・思いを感じる。入口には避難時に備え、独歩・車イスの表示がしてあり、災害時の安心・安全面の配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握しその人にあった声かけや見守りを行い安全に暮らすことができるように支援を行っている。また、能力の維持ができるような工夫に努めている。		

2 目 標 達 成 計 画

グループホームやまびこ

作成日 平成 31年 2月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	本人の行きたい所や買い物等への外出が減少している	利用者本人や家族の希望にそって行きたい所への外出を増す	<ul style="list-style-type: none"> ・外出ボランティアの確保 ・家族との協力 ・他事業所との連携 	6ヶ月
2	23	本人の真の思いや願いの理解不足があり家族との共有が希薄になっている	本人の真の思いを理解できるよう努力し家族とも常に情報を交換していく	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の思いをしっかりと聴く ・職員の思いで先走りしない ・家族との連携の強化 	直ちに
3	12	若い職員の不足	事業所の理念を理解した若い職員の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の労働環境の改善 ・魅力ある職場であることのアピール 	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。